

英文學評論

第 X 集

説得とドラマ……………嶋原真一

——『ハムレット』第四幕第七場より——

ミルトンの失明をめぐる問題……………宮西光雄

『ジョナサン・ワイルド』の周辺 (2)……………飯沼馨

アーノルドの古典主義 (1)……………川田周雄

オックスフォード拝見……………佐々部英男

京都大学教養部英語教室

目次

説得とドラマ	……………	鳴原真一……………(一)
——『ハムレット』第四幕第七場より——		
ミルトンの失明をめぐる問題	……………	宮西光雄……………(一九)
『ジョナサン・ワイルド』の周辺	(2) ……………	飯沼馨……………(二)
アーノルドの古典主義	(1) ……………	川田周雄……………(一九)
オックスフォード拝見	……………	佐々部英男……………(二四)

編集後記

一九五四年に創刊された「英文学評論」も、本号をもって、いよいよ十号を数えるに至りました。微力なわれわれではありませんが、一同力を合わせ、切磋琢磨をおこたらず、本誌をよりよきものにしてゆきたいものです。

本年度はじめ、新進気鋭の鴨原真一氏を教室に迎えました。が、早速、氏にもご苦勞を願ひ、本誌には全部で四篇の論攻を載せることができました。また、オックスフォードでの研究を終え、一年ぶりに帰られた佐々部英男氏からは、興味ふかい「オックスフォード拝見」をいただきました。寄稿諸氏に心から感謝いたします。

佐々部氏といれかわりに、松下千吉氏がコロンビア大学で研究のため渡米されました。トリリング教授の「ワーツワスとキーツ」の講義など、うらやましいかぎりです。

さきに帰国されたロージア・マシユーズ氏の後任として、デニス・キーン氏がみえられました。氏はオックスフォード出身。英語教授に関する氏の卓見をゆっくりうかがうことも、いずれはできましよう。

なお、前号から続載の予定であった寺田建比古氏の「後期エリオットの根本問題」は同氏ご病氣のため、中斷のやむなきに至りました。氏のご恢復を祈るとともに、次号に執筆いただくことを期待いたします。

(編集委員)

英文学評論 第十集

非 売 品

昭和三十七年二月二十五日 印刷
昭和三十七年二月二十八日 発行

編集者 京都大学教養部英語教室

代表者 山村 武雄

印刷所 明文舎 印刷株式会社

京都市上京区今小路通御前西入ル

発行所 京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

VOL. X. February 1962

CONTENTS

A-Dramatic Function of Persuasive Argument

—From *Hamlet*, IV, vii.— *Shinichi Shigihara*

Some Problems on Milton's Blindness *Mitsuo Miyanishi*

On *Jonathan Wild* (2) *Kaoru Inuma*

Classicism of Matthew Arnold (1) *Kaneo Kawata*

Glimpses of Oxford *Hideo Sasabe*

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY